

一般社団法人日本環境化学会

平成 29 年度第 3 回理事会

日時：平成 30 年 1 月 26 日（金）14:00～15:00

場所：東京理科大学理窓会 PORTA 神楽坂 7 階 第 2 会議室

議題

1. 部会活動費について
2. 討論会開催地について
3. ORCID についての報告
4. その他

議題 1

部会活動費について

今年度の利用状況

- ・北海道東北地区部会 支給額：151,051 円（謝金、旅費）
開催日：2017 年 8 月 2 日
"Chemical Hazard Symposium (Joint Seminar on Environmental Chemistry and Toxicology)" ~Widens the knowledge and construction of research network! ~
- ・関東地区部会 支給額：未確定
開催日：2018 年 1 月 18 日
「改正労働安全衛生法に基づく化学物質リスクアセスメントに関するセミナー」
- ・WET 部会 支給額：未確定
開催日：2018 年 1 月 20 日
「第 1 回 TRE/TIE 研究会（キックオフミーティング）」

現在の部会活動費申請手順

以下のように案内しています。

平成 29 年度は、調査研究、地区担当各部会のための部会活動費 100 万円が予算に計上されました。各部会正幹事は所定の手続きを経て部会活動費を請求することができます。

- ・すべての部会に配分されるものではなく、申請が必要です。
- ・各部会年間 20 万円を限度とし、実費を支給致します。
- ・会場費、旅費、謝金、印刷費などに利用できますが、飲食に利用することはできません。
- ・実施記録として数枚の写真とともに実施報告を作成してください。機関誌「環境化学」へ掲載します。
- ・活動費の用途によって会計処理上のルールが異なります。
- ・活動費の利用は、学会事務局による申請書確認後からの経費に限ります。

申請手順

- ① 企画
- ② 申請書の作成
- ③ 担当理事へ提出し承認（印）を得る。
- ④ 担当理事の承認印のある申請書を事務局へ提出

検討事項

・20 万円を超える経費がかかる活動を行う場合、前年度の活動費を部会として積み立てて 40 万円で利用したいとの要望が出ています。（九州地区部会）参考をご覧ください。

事務局からは「現行では、部会活動費がすべての部会に配分されるものではないこと、限度は 20 万円であることから、部会で積み立てることはできないので、理事会で検討してもらいます。」と回答。

企画毎に活動費の限度額を設定できないか、あるいは企画によっては学会のイベントとして行えないか、その際の判断方法などご検討のほどお願い致します。

第 28 回環境化学討論会（2019 年）

開催について現在、以下で調整を行っております。

詳細が決まり次第、ホームページまたメールニュースでお知らせ致します。

実行委員長：埼玉県環境科学国際センター総長 畠山史郎

副実行委員長：大塚宜寿、四ノ宮美保（今後実行委員等検討）

討論会事務局：学会事務局内に設置

開催日：2019 年 6 月（現在調整中）

会場：埼玉県の浦和駅からの徒歩圏内で調整中

第 29 回環境化学討論会（2020 年）

実行委員長：摂南大学 太田壮一

開催地：大阪

第 30 回環境化学討論会（2021 年）

記念大会を企画する場合は早めの準備が必要。

平成 29 年 10 月 12 日～10 月 19 日の電子理事会にて承認をいただきました「ORCID 学協会コンソーシアム設立に向けての科研費申請参加」について結果をご報告申し上げます。

国立情報学研究所副所長であり、特定非営利活動法人 UniBio Press 理事である安達淳氏を代表とし、18 ジャーナル (18 学会) が参加表明し、平成 30 年度「国際情報発信強化 (A)」科研費申請の手続きが進められていました。

しかしながら、申請途中で「国際情報発信強化 (A)」への申請は英文 100%のジャーナルしか受け付けないことが分かり 18 ジャーナル (18 学会) のうち和文混合の当会を含む 7 ジャーナル (7 学会) は申請ができないこととなりました。

大変お騒がせ致しましたが、ORCID の機関メンバーとなることは叶いませんでしたが、上記の ORCID 学協会コンソーシアムに加盟せずにできるいくつかのことがございます。

1. 投稿審査システムで、ORCID ID を持っている投稿者は投稿時に ORCID ID とリンクすることによって入力の手間が省ける。

これを行うために、まず ORCID に無料で 1credential 利用できる Public API を申請する。その後、投稿査読システム (S1M) の提供元である杏林社に連携を依頼する。Public API (無料) では「研究者から ORCID iD を集める」「ORCID のデータベース内で公開設定されている情報を読み込む」といった必要最低限の連携が可能です。

2. 掲載論文を著者の ORCID レコードにリンクできる。

J-STAGE 公開時の書誌 XML に著者の ORCID ID を含めることで、ORCID メンバー機関でなくても CrossRef と ORCID に Auto Update という仕組みができていますので、著者の ORCID レコードにリンクが可能。

今後、これらの作業を行い、ORCIDid をもつ著者の ORCID レコードの充実や、投稿作業の簡素化をはかりたいと存じます。

今後、日本で ORCID 学協会コンソーシアムが立ち上がり、妥当な金額で利用できるようになった時には再度、検討させて頂きたくお願い申し上げます。